

唯一の神がおられるだけ

コリント人への手紙第一 8章 1-6節

はじめに

「コリント人への手紙第一」を少しずつ読み進めています。今日から8章に入ります。

7章には、クリスチャンの結婚、離婚、再婚、独身の問題について書かれていました。

8章からは、1節にあるように「**偶像に献げた肉について**」の問題が書かれています。コリントの町は、偶像礼拝が盛んに行われている町でした。そこでコリント教会のクリスチャンにとって問題となったのは、偶像に献げた肉を食べてよいかという問題です。

コリントの町の人々にとって、偶像に献げた肉を食べる機会が三つありました。一つは、神殿の礼拝においてです（8：10）。神殿で偶像礼拝が行われた時に、礼拝者たちは食べるのです。二つ目は、市場においてです（10：25）。神殿の礼拝において食べきれなくて余った肉が市場に売りに出されるのです。ですから市場には普通に、偶像に献げられた肉が売られていたのです。三つ目は、招待された家においてです。市場で普通に偶像に献げられた肉が売られていたので、人々はみな市場でその肉を買い、料理をしてお互いを家に招待してその肉を食べたのです。偶像礼拝が盛んに行われていたコリントの町にとって、偶像に献げられた肉は、普通の食生活の一部となっていたのです。

しかし、イエス様を信じて唯一の神様を信じるようになったこの町のクリスチャンたちは、戸惑い始めるのです。偶像礼拝は神様が忌み嫌う罪であることを、彼らは知っていました。だからこそ、その偶像礼拝で用いられた肉を、果たして食べてよいのだろうか、この肉は普通の肉ではなく汚れているのではないか、この肉を食べると罪を犯すことになるのではないか、そのように思い悩むクリスチャンたちが出てきたのです。

しかしある人は、偶像の神なんてそもそも実際には存在しないのだから、存在しない物に献げられた肉は普通の肉と何も変わらない、たとえ食べても汚れるわけでもないし、罪を犯すわけでもないと考えて、平気で偶像に献げられた肉を食べるクリスチャンたちがいたのです。

このようにコリント教会のクリスチャンたちの間に、偶像に献げられた肉を平気で食べるクリスチャンと、食べることに良心が責められて思い悩むクリスチャンたちがいたのです。そこでパウロは、この問題について8章から10章まで書いているのです。

1. 本当の知識

今日の聖書箇所で、パウロはおもに偶像に献げた肉を平気で食べる人たちに対して語っています。彼らは「**私たちはみな知識を持っている**」とっていました。彼らの知識とは、4節にあるように「**世の偶像の神は実際には存在せず、唯一の神以外には神は存在しない**」という知識でした。彼らは、この知識に基づいて、偶像の神は実際には存在しないから、偶像に献げた肉は普通の肉であって、たとえ食べても何の罪にもならないと考えました。

確かに彼らの知識は正しいものでした。確かに偶像の神は実際には存在しないし、唯一の神様以外に神は存在しません。少なくとも、私たちクリスチャンはそのように信じています。彼らの信仰的な知識は、確かに正しかったのです。しかしパウロは彼らに、1節でこう言います。「**知識は人を高ぶらせ、愛は人を育てます**」。彼らの知識は確かに正しいものでした。しかし彼らは、その知識によって高ぶり、偶像に献げた肉を食べることに思い悩んでいるクリスチャンたちを見下していたのです。「なぜ彼らは思い悩むのか、偶像なんて実際にいないじゃないか、唯一の神様しかいないのだから、偶像に献げた肉なんて思い悩まず食べればいいじゃないか」。

彼らの知識には愛がなかったのです。思い悩む人に対する配慮や彼らの悩みを理解しようとする心がなかったのです。パウロは「愛は人を育てる」と言います。この「育てる」という言葉は、「建て上げる」という意味で、教会を建て上げるという時によく使われる言葉です。教会は、「知識」によって建て上げられるのではありません。教会は「愛」によって建て上げられるのです。

では私たちには、「知識」は必要ないのでしょうか。そうではありません。私たちは、「知識」か「愛」かのどちらかを選ぶべきなのではわけではありません。大切なのは、「愛」に基づいた「知識」を持つということです。「愛」と切り離された「知識」は、人を見下し、人を傷つけるようになります。そのような知識は、教会を建て上げることも、私たちひとりひとりの人生も建て上げることもできません。

ではどうしたら愛に基づいた知識を持つことができるのでしょうか？旧約聖書の箴言1：7には、「**主を恐れることは知識の初め**」とあります。愛に基づいた知識、本当の知識は、神様を恐れることから始まるのです。神様を恐れるとは、「神様を愛する」とも言えます。

宗教改革者のカルヴァンが牧師をしていたジュネーブ教会の信仰問答には、このようにあります。「**人生の主な目的は何ですか。神を知ることです。**」(問一)「**では神についての真の正しい知識は何ですか。神をあがめる目的で神を知る時であります**」(問五)。私たちにとって知識は必要なものです。しかし、何のために知識を持つのが大切なのです。自分を高め、人よりも優れるために、自分に自信を持つために知識を持つ時、その知識を振りかざして人を見下し、人を傷つけるようになります。そうではなく、神様をあがめる目的で、神様を恐れる目的で、神様を愛する目的で、知識を持ち、学んでいくことが大切なのです。本当の知識は、神様を愛することから生まれます。そのような知識こそ、教会を建て上げ、私たちひとりひとりの人生を建て上げていくのです。

では神様を愛する目的で知識を持ち、学んでいく時、何が分かるのでしょうか？それは、3 節にあるように「**神に知られている**」ということです。神様を愛する目的で知識を持ち、学んでいく時に、私たちは、神様に知られているから神様を知ることができたのだということが分かってくるのです。神様に愛されているから神様を愛することができたのだということが分かってくるのです。

2 節に、「**自分は何かを知っていると思う人がいたら、その人は、知るべきほどのことをまだ知らないのです**」とあります。私たちが知るべきこと、それは私たちが神様を知ったのではなく、私たちが神様に知られていたのだということです。また私たちが神様を愛したのではなく、神様に愛されていたのだということです。私たちの知識も愛もすべては、神様によって与えられたものなのだということです。それこそ、私たちが「知るべきこと」なのです。知識を振りかざして高ぶり、人を見下しているうちは、まだ「知るべきこと」を知っていないのです。本当の知識には至っていないのです。

本当の知識は、愛に基づいた知識です。私たちは神様に知られ、神様に愛されている、そのことをしっかりと見出し、神様を愛し、人を愛する知識です。そのような知識こそ、教会を建て上げ、私たちひとりひとりの人生を建て上げていくのです。

2. 神から発し、イエス・キリストによって神に至る

6 節には、「**私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、この神からすべてのものは発し、この神に私たちは至るからです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、この主によつてすべてのものは存在し、この主によって私たちも存在するからです**」とあります。確かに偶像の神は実際には存在せず、唯一の神以外に神はいません。しかしそれは、学問的に証明した知識ではなく、信仰によって与えられた知識です。私たちは、イエス・キリストを信じ、父なる神様のもとに立ち返ったからこそ、神は唯一であり、神以外に神はいないと知ったのです。

私たちは、この神様から発し、神様に至ります。私たちは神様に造られ、命を与えられました。そして、神様に栄光を帰すために生かされています。ウェストミンスター小教理問答には、このようにあります。「**人の主な目的は何ですか。人の主な目的は、神の栄光を現わし、永遠に神を喜ぶことです**」(問一)。私たちは神様から命を与えられたからこそ、神様の栄光を現わして生きるのです。それこそ、私たちが生かされている意味です。私たちの人生は、神様から発したので、神様に至るのです。私たちの人生の終わりも神様に至ります。私たちの人生は、永遠の命を与えられて、神様のおられる天国に至るのです。

すべての人は、神様に造られ、命を与えられました。すべての人は神様から発しているのです。しかし、すべての人が神様に至るわけではありません。すべての人が神様の栄光を現わして生きているわけではありません。すべての人が永遠の命を与えられて、神様のおられる天国に至るわけではありません。

それは、イエス・キリストを信じる人だけが至る道なのです。イエス・キリストを信じる人だけが人生の目的を知り、神様の栄光を現わして生きることができます。イエス・キリストを信じる人だけが永遠の命を与えられて、神様のおられる天国に行くことができます。

イエス・キリストは言われました。「**わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません**」(ヨハネ 14:6)。またパウロもこのように言いました。「**神は唯一です。神と人との仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです**」(1テモテ 2:5)。イエス・キリストこそ神様に至る唯一の道なのです。

おわりに

私たちの人生において「知るべきこと」「知らなければならないこと」は、私たちは神様に知られ、神様に愛されているということです。私たちは神様に造られ、神様に命を与えられました。私たちの人生は神様から発したので、神様に至ることこそが、本来の人生のあり方です。それは、神様の栄光を現わして生きること、永遠の命を与えられて神様のおられる天国に行くことです。しかし、すべての人が神様に至るわけではありません。イエス・キリストを信じる人だけが神様に至ることができます。イエス・キリストこそ神様に至る唯一の道であり、イエス・キリストこそ唯一の仲保者だからです。

私たちの知識は、イエス・キリストを信じて、神様をあがめる、神様を恐れる、神様を愛するということから始めなければなりません。それでこそ私たちの知識は、本当の知識、愛に基づいた知識となるのです。そしてそのような本当の知識、愛に基づいた知識こそが、教会を建て上げ、私たちひとりひとりの人生を建て上げていくことになるのです。